またれる集会日

四山ろ方運搬の五人組

会社の非道な差別待遇・組織切り崩しにたいして、職場では五人組を組織し、お互いの連けいを深かめ団結を固めてい抗をつよめているが、この五人組の制度が職場ではてい抗を支えて大きな成果をおきめている。とくに四山支部ろ方運搬の例のように、家族的な結びつきをつよめ、人間関係を高めて団結をガッチリと強めているなど、大きな発展を見せてきた。

地域的に組織

就労後のはげしい差別攻撃にたいして、組合では昨年の春ごろ五人組制度をつくって、会社の攻撃に対抗してたかいをすすめてきた。四山支部ろ方運搬でも、ただちに組織化がすすめられてきた。だが坑内運搬の特殊性として、運搬は坑内全域にわたって配役される関係から、五人の間での連けいが非常に困難である。そのため比較的職場が近かく、日常の連けいがとれるところをという考えで組織していったが日々配役がかわるため困難がよわなつたこうしたことからろ方運搬では五人組を地域的につくり、五人組同士の家族的な親交やお互いの人間的な関係をさらに高めたらということで、これを運搬の職場集会に提案したところ、認められたのである。

なごやかな四山ブロックの五人組集会

雑談に花が咲く

いろいろ方運搬では昨年四月から、この考えにもとずいて五人組を編成し、少いところで四名多いところは八名ぐらいで組織地域的にブロックをつくり、例えば緑ガ丘のちぐいすブロック四山ブロック、大平ブロックなどと呼んでいる。

五人では組をつくって以来必ず一番方のとき一日は地区ごとに集会をもつことにしているが、それも奥さんと一緒だ。

集会といっても別にむづかしい論議をするわけではなく、雑談が主で、主婦にとってはその雑談の中から夫たちのおかれている状態や、環境を認識するのに大いに役立つている。

孤独感もふっとぶ

ともすれば、うちの主人だけがこんなひどい差別を受けているのではなかろうか、との孤独感も、こういう雑談の中で、みんなひどい差別と闘っていることがわかってくるわけである。

五人組結成以来、今まで顔もしらなかった組合員・主婦が、いまでは親類のように深いつきあいをし主婦たちは一番方のこの状態を首を長くして待ちわびている。

主婦の一人は「この日が一番たのしみです。もし常会がなければ、女だけでもやろうと思っていました」と語っていた。

常会は現場のこと、組合のこと、第二組合のこと、はてはパチンコまで話題はつきず、話に花が咲く

こうして団結が

ブロックの責任者は、最初は一年もつづくだろうかと危ぶんだが、全くきゆうにおわった。

親近感をさらに強めるためにと、この一年延命公園のハイキングや立願寺へのレクレーションもやり団結はいよいよ強まり、お互いにガン張ることをいよいよ固く誓いあったという。

また一組だけの集会ではなく数組こんでいる。

久保さんを思う

四山支部　一組合員

やがて三月二十九日がくる。月日の流れは早いもので、あなたが去つてから二年になる。おりし日のあなたを、いましずかに思う。

あなたがこの四山の地にきたのは、二十才の若さあふれる青年のころであった。このころからきちよめんで、無口のおとなしい人であった。

苦労をして育つたせいか、親子兄弟の仲のよいこと、争う声を聞いたことは一度もないと近所の評判だつた。そんなあなたも兄弟でよくパチンコに行つていた。このパチンコぐせも、奥さんをもらい家をもつてからはやめてしまい、器用な腕でミズヤ、戸だな、炊事場などをつくり、奥さんを喜ばせていたものだ。

まじめで奥さん思いで、人一倍子供をかわいがつていたあなたの、たつた一つの趣味は、さむい冬の堤防でのボラつりであつた。さむい北風が吹くと〃ボラ風だ!!ボラ風が吹く〃といつて、長いサオをかついで海へ走つていつたものであつた。いま思えば、このつりに着ていつた寒さしのぎのオーバーが、あなたが最後のときに着ていたものだつた。

昭和二十五年も最初の一月、二月まではボラつりでおわつたが、三月にはいつて三池闘争ははげしい闘いの様相をみせてきた。第二組合ができ、彼らがろう城するというわさが盛んにながされた。

このようなある日、いや忘れもしない二十七日の夕暮れどき、〃ハイヤー、トラックに分乗した暴力団が第二人工島に向う〃との報をきいた。さらに〃人工島で行動隊暴力団におそわる〃の報に接し私たちが現地に到着したときは、内から鉄条網をはりバリケードをして火をたく暴力団が見えたとけであつた。このときすでに三池に黒い陰謀の雲がかかつていたのだ。

翌二十八日、三川鉱で多くの怪我人がでるや、警察署は私たちに棒をすてくれ、そのかわり警察がきつと守ることを約束した。

二十九日私たちは無防備で各門のピケについた。思えば私は久保さんの一つ前の方として正門ピケについていた。私たちと交替したとき、ご苦労さんとにつこり笑つつ別れたのである。それから一時間半、市内をパレードしたトラック、バス、ハイヤーが四山に向つて来たのだ。

私はあなたが正門から抱きかかえられてくるのに出分つたのだ。顔を青ざめ体をエビのように曲げて連れ去られていくのを見た。しかし死ぬとは思わなかつた。

死のしらせを受けるやわれわれの血はにえたぎつた。もし指揮者が労働者としての自覚と誇りを訴えなかつたら、どうなつたか私にもわからない。それほどみんなの労働者が怒りにもえたのだ。労働者の誇りをとりもどすや、私たちはあなたのめい福をいのつた。

あなたがいなくなつたあと、職場では会社が気違いじみた差別を私たちにおしつけ、組織を切りくずすために血眼になつている。だが、私たちはあなたにまけることなく、職場では抵抗をかさね、きびしい闘かいをつづけている。

あなたの死は、いまも脈々と私たちの心に波うち励ましと支えている。決して無駄にはなつていないのだ。

企業組合めぐり (3)

二台がフル運転

三興建材、知人にPRを

企業組合三興建材が発足したのが昨年十月一日、創業以来半年を迎えたわけである。

板井正則さん(宮浦出身)を中心に出資者、出資予定者九名をふくめ総員二十六名、その中には主婦会員十名、外来関係などほとんど組合員と組合員家族である

大牟田港の突堤に事務所がつくられ、原材料の直接荷上げができるという絶好の場所を占め、これによるコストダウンも事業を有利なものにしている。

この日も、岸壁に横づけにされた船から、コンベアで砂があげられていた。

作業場の横には製品となつたブロックが、整然とつみ上げられて出荷をまつばかりにおかれている。

作業場にはいまブロックマシンが二台すえられ、うち一台が運転中で、四月からは二台がフル運転で活躍する。

一台の月産能力が三万枚だから四月からは生産が一躍倍加する わけである。

主産品は建築用の十、十二、十五、二十センチの各ブロックと側溝板、補道板である。

仕事の主なものは県や市の土木課からくるものと、入札の二本建であり、受注も順調なのびをみせている。今年になつてからも二月一万三千、三月二万五千と逐次のびをみせている。

業者との競争であり、おまけに仕事の性質から保守側からの妨害もあつており、三池争議のしこりがまだ強くのこつているという。

このため三興建材としては、販路拡張にはどこの業者の製品より価格がやすく、品質が良質なのを出すしかなく、また実際それを行なつている。

だから同業者が単価の押しつけをせまつたことがあり、大牟田にマーケットをもたない関係からも、まだ協定はすべきでないとの態度をとつている。

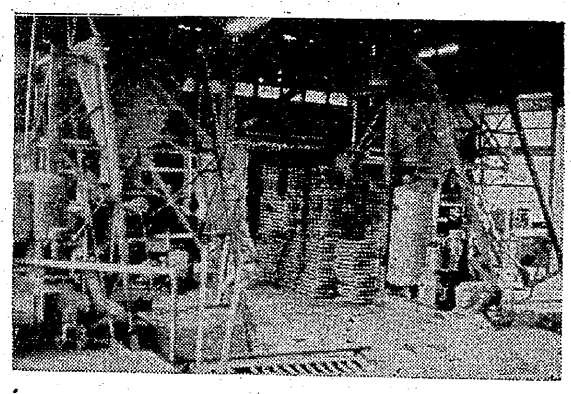
組合員にとくに要望したいと板井さんは「企業を繁栄させるためにも組合員の兄弟、親せきで建築などをするときブロックを必要とする人にぜひ当企業のPRをしてもらいたいことです。電話でよく組合員から製品の分譲を申込まれますが、入手困難なセメントなども極力お世話しています」と語つていた。

製品はどこより安く、良質でサービスも極力つとめている。

三興建材では土建業の登録もつており、近い将来施行にまで手をのばす計画であり、営業所も街へ進出することとして、すでに場所も決まつている。

このほかJIS(日本工業規格)申請も行つており、百トンの耐圧試験機もそのため備付けるこれが認可されると(日本で三十数社、久留米以南はなし)それこそ鬼に金棒というところである。

輸送力の増強をはかり、現在の二トン車のほかに、さらに三月二十一日ダイハツの六二年型二トン車を購入、企業は本格的に動きだした。



(写真は新鋭のブロックマシン)

(二面座談会続き)

労働者を無権利の状態に追込むハラだ

それがどういう方向にくるか、なぜくるかということは、最初目安がなかつたが、日が経つにしたがつて「われわれに対する攻撃は合理化促進のためのものであり、だからだんだん合理化は強化されてくる。

しかし第二組合へのしわ寄せ状態もますます倍加されてくる」とそういう気持ちをもちつつあります。

清水　合理化一般の問題として差別がやられていますが、それだけではありません。それだけなつたら、どんどんもらけて銀行に早く金を返すとよいのです。要は無権利状態に労働者を落し入れる攻撃があると思うですね

塚元　相手は近道を選んでいますそれが差別・組織ゆさぶりに出てきているのですが、果して近道を相手が通つてゆけるかどうかですよ。

大きな組夫問題

司会　会社の弱点をもう少し整理しましょうか。

横山　例えば組夫問題ですが、これは合理化としては一番するとい追及の仕方と思いますね。もう一つは、組夫が増大すればある意味では第二組合の比重が軽くなるという問題にもなりますが、そういう判断をしてよいかどうかですね。三池労組と第二組合の共通の敵に対する一つのものが形成される客観的な情勢が生まれます。逆にいうと会社の弱点になるのです。

渋田　よそでは組夫・臨時夫が半分位いる所もあります。

三池でも組夫が拡大されている現情の中で、第二組合の比重が軽くなり、第二も三池労組もないということになつてきますので、共通の場の闘いが出てきますし、共通の被害で話し合いをもつことも今後は予想されます

久保田　先生のいわれたことはつきりしています。知らぬうちに百名の組夫が六百名になつています。

さらに会社側が手を打つているのは、第二組合員の層たたきです。辞めさせて徐々に外注に切替えるわけですが、この徴候はすでに出ており、事実として現われています。

清水　統一闘争の条件はしだいに貧なつてくると思います。いわゆる長期抵抗路線の中で、三池労組の掲げる旗印が第二組合に刺激となり、精神的なよりどころとなると思います。

灰原　共闘はまだまださきの問題と思いますが、むしろ第二組合は今のような姿勢でよいのかという批判が、第二組合の下部から合頭しつつありますね。

横山　楽観的になつてはいかんが組合員に対しては、展望はこうだと自信をもつてもらうべきだと思いますよ。

労働者の誇り

司会　第二組合の構えについてはどうですか。

灰原　能率は二倍になり、殉職死亡は昨年度十七名で戦後最高です。そういう中で第二組合の賃金要求額が中央委員会で執行部の三、〇〇〇円が三、二五〇円に引き上げられたことなど、労働者らしい要求が出てきたのは重視すべきだと思います。

久保田　しかし労働者的に目覚めてくると、私たちの考えを即理解しはじめたのだと認識すれば間違つてきますよ。危険です。そのいい芽を育てて行かなければならないと思います。

塚元　会社が第二組合をつくつてなぜ急いで平和協定をつくつたか、この情勢分析が問題です。一つは急ピッチに合理化を進めなければならない、そのため第二組合に職制支配が強く入ります。そうすると第二組合員からの抵抗という矛盾が起こる、だから対策としてスト権売り立ての平和協定になつたと思います。もう一つは、第二組合といえども労働者の質は低いものではないと思います。

果して職制支配が長くつづくかどうかの不安があつた。そのための協定を急いだと思います。裏からいえば、三池の場合には相当な矛盾がかなり早く出てくると思います。そういう問題と条件はあり、これははつきりいえますね。

戦略的要素も大切

横山　三池労組には殺業もさせられない、第二組合員にいわせるとおれたちも帰りたいというものがあります。そういう矛盾が出て第二組合の無権利状態の中で、共通の利害関係をもちはじめています。だから私たちは第二組合に対する兄弟的な関係をもつて、呼びかけてゆく、感情的な問題もあるが時期的にはそれがきていると思います。

塚元　長期抵抗統一路線だと思うんです。

ただ心配なのは、それが大衆の中に理解されない状態の中では危険だと思います。いわゆるタイミングの問題でしょう。

横山　タイミングは確かに大事でしようが、ただ、今まで私たちが論議したのは戦術的なことが多い。だから戦略的なものも重要だと思います。

長期抵抗路線といつても、それが強大になつてゆくためには、直接的には第二組合の中に、私たちに呼応するような友軍をどれだけ多くつくるかということですよ。

太田　三池労組にいるということは労働者の誇りをもたなければおれないものです。

誇りとは何かというと、三池の抵抗が全労働者にどれだけプラスになつているか、これを知らなければ三池労組におれるものではありません。この点が触れられていないようです。もつと誇りをもつてもらいたい。

それから、第二組合に対して、おれたちがここで退歩すればお前たちはこうなるのだと、わかりやすく書いて自覚を促し教えることも大切です。

渋田　実際そのとおり、合理化攻撃は「差別」なしにやがて全従業者にかけられるものなのだ。このことは、運動の中の不動の確信ですよ。

司会　今日はこれくらいでやめますが、行動方針への理解を全体的にすすめねばならないと思います。

私たちの闘いの展望に直接つながる討議と具体的行動の実践が一体になることが土台ですからそれではこれで。